

近隣地域の幼稚園、保育所における障害児担当保育者に対する支援活動

徳田 克己(医学医療系・教授) 水野智美(医学医療系・准教授)



背景 と 事業の目的

保育者を対象としたこれまでの調査より、幼稚園や保育所に勤める保育者の多くが、障害児への対応方法に苦慮しており、保育者自身の職場適応に影響することが明らかになっている。加えて、2011年3月の東日本大震災で被災した子どもたちへのケアも、被災地と避難地域の保育者と保護者には大きな課題となっている。保育者の変容に関しては、専門家から具体的な対応方法について助言を受けることにより、保育者の心の負担を軽くし、変容につながるこれがこれまでの調査で示唆されている。そこで、今回のプロジェクトでは、近隣地域、東日本大震災被災地域および避難地域において、保育者と保護者に対する支援活動を行い、よりよい障害児保育の支援体制を整える基盤を構築することを目的とした。

活動地域と事業内容

1. 活動地域

近隣地域(茨城県、埼玉県、東京都、千葉県、栃木県、山梨県)
東日本大震災の被災地である地域(青森県、岩手県、宮城県)
放射線事故の影響を受けて子どもが避難している地域
(香川県、沖縄県)

2. 活動期間: 2011年4月～2012年3月

3. 活動内容

各地域の幼稚園・保育所に対する巡回相談・電話相談・メール相談
大学内における定期的な勉強会・相談会の実施
各地域における講演会と相談会の実施



子どもに対する支援活動(沖縄)



保育者勉強会での講義(大学)



保育者を対象とした相談会(大学)



子どもへの障害理解指導(沖縄)

事業成果

勉強会の開催(10回) 参加者数のべ450名
「障害がある子どもの保育勉強会」
「地震や津波で被災した子どもの心を守るための保育勉強会」
巡回相談の実施(35回) 相談者数のべ400名
ボランティア相談員として
保育者研修会へ参加(約30回)
相談者数のべ200名
講演会と個別相談会の開催
地方自治体との連携
各地域の幼稚園連合会、福祉協議会、保育所協議会、保育協会などと連携をはかり、巡回指導と相談会を実施。

発達障害のある子どもに対する保育に関する相談

- ・着ている服をすべて脱いでしまう
- ・他児に対して手がでる
- ・ふらふらと外に出してしまう
- ・気に入らないと泣き叫ぶ
- ・こだわりが強い
- ・一番でないと暴れる など



家庭の養育環境の歪みによる心への影響に関する相談

- ・身体的虐待・放任
- ・父親がアルコール依存症で暴力をふるう
- ・母親が精神疾患を罹患している
- ・家庭が極端に貧困 など

原発事故による活動制限が原因の問題行動に関する相談

- ・親が放射線汚染に非常に神経質
- ・慣れない環境による問題行動
- ・母親が心理的に不安定 など

今後の展望

筑波大学における地域の保育者を対象にした勉強会・相談会の継続
保育者が「遠慮せず、気楽に」相談できる支援体制の構築
定期的な巡回相談、相談会の開催
マスメディアを通じた支援対策の情報発信



2012年2月

「筑波大学発 ベンチャー企業 子ども支援研究所」を設立！
より質の高い子ども支援の提供を目指す。